

6-2 中国東部・近畿北部・北陸地域における地震活動（1988年1月～6月）

Seismicity in the Eastern Chugoku, Northern Kinki and Hokuriku Districts,
Southwest Japan (January-June, 1988)

京都大学防災研究所 鳥取微小地震観測所

北陸微小地震観測所

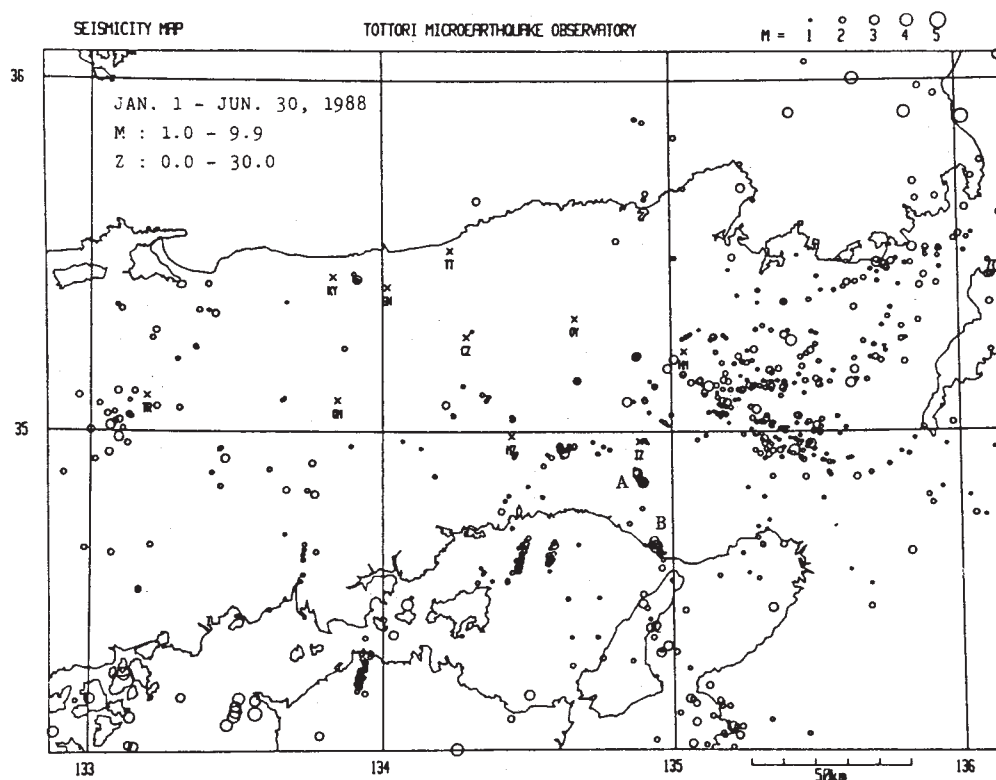
京都大学理学部 阿武山地震観測所

Tottori Microearthquake Observatory and Hokuriku Microearthquake
Observatory, Disaster Prevention Research Institute
Abuyama Seismological Observatory, Faculty of Science
Kyoto University

第1図に鳥取微小地震観測所の観測結果を示す。主な活動としては次の二つが挙げられる。図中Aで示すものは小野市附近の活動で、M3.1及び3.0を最高に、約14個が観測された。図中Bは加古川市附近の活動で、最大のM3.9、約6個が観測された。1983年10月31日鳥取県中部の地震(M6.2)及び1984年5月30日山崎断層の地震(M5.6)の余震活動は尚続いている。一般にこの期間の地震活動は低調であった。

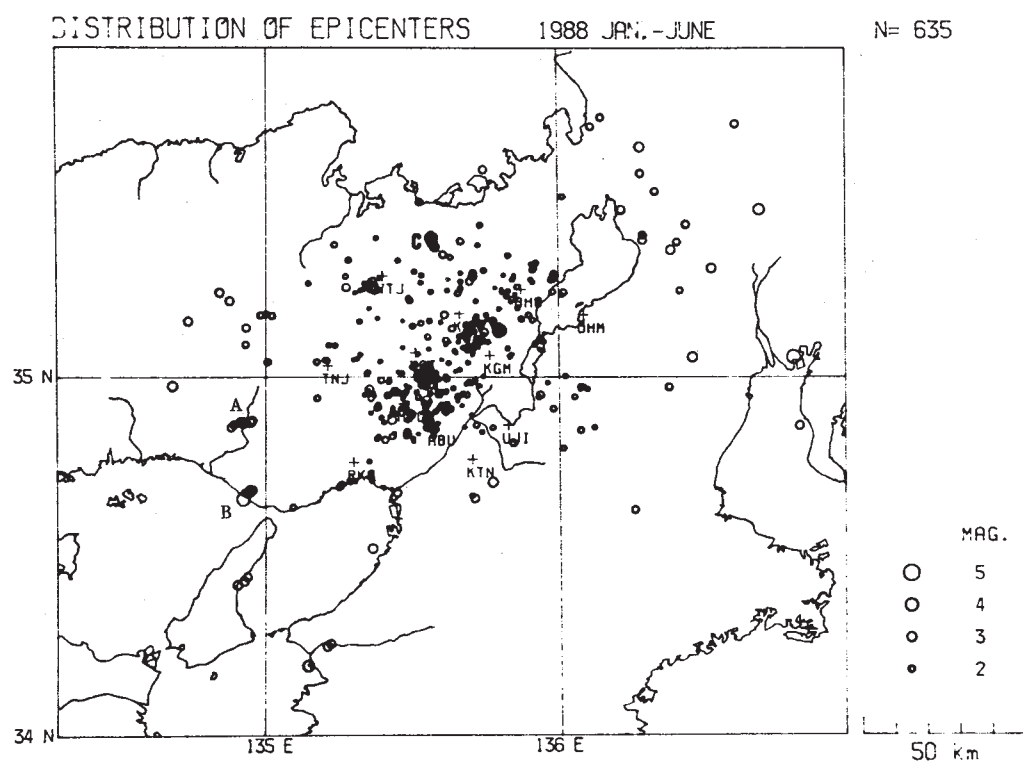
第2図に阿武山地震観測所の結果を示す。図中A及びBは第1図におけるものと同じ活動である。Cは京都府・福井県の境界附近の群発活動で、昨年後半から6月まで続いており、最大のMは3.9、舞鶴で震度1であった。この地域を含めて、若狭湾沿いの地域は微小地震活動度の低いところであり、その意味でやや目立つ活動であった。一般的な活動状態はやはり低調であった。

第3図に北陸微小地震観測所の結果を示す。北陸地域もいつもの半年間と較べて大変静穏であった。目立つ地震活動としては、A、Bで示す福井地震断層沿いの活動で、AはM4.5を最大とする群発活動、今庄(IMJ)観測室で47個が観測された。BはM3.8であった。これらはいずれも福井地震(1948年)の余震と思われる。CはM4.0、Dは第2図のCと同じ活動である。



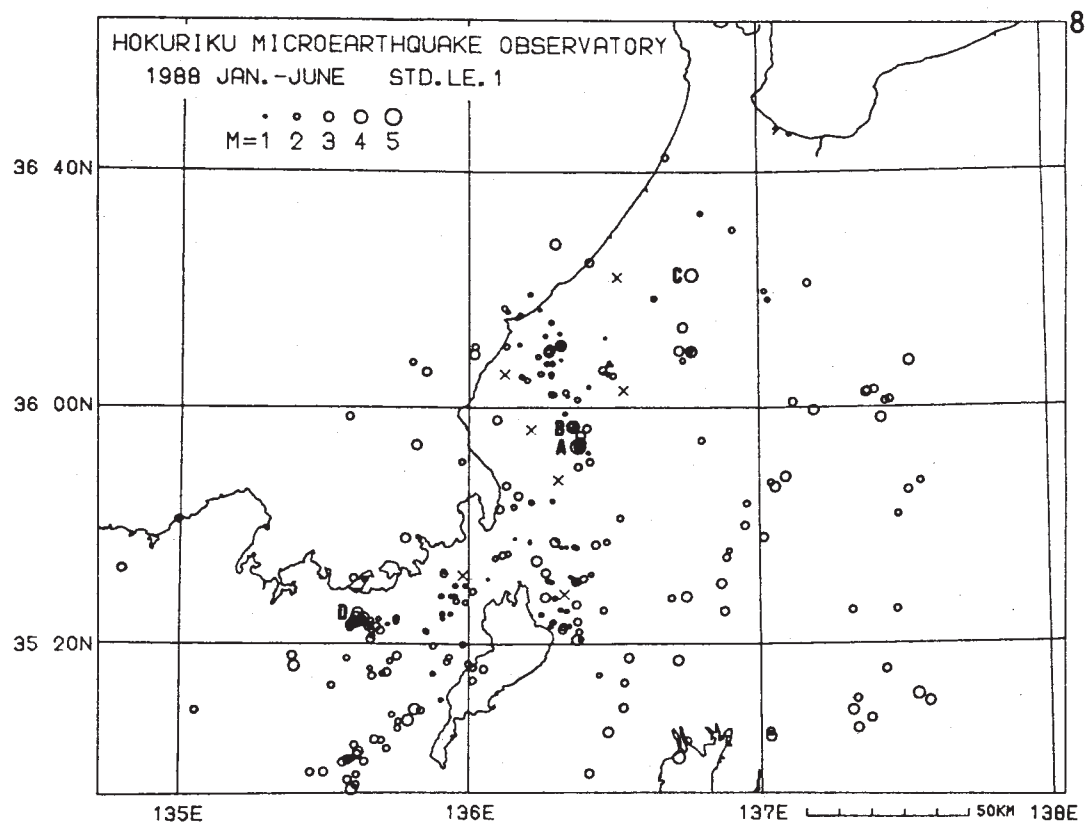
第 1 図 鳥取微小地震観測所による震央分布図 (1988 年 1 月～6 月)

Fig. 1 Seismicity map by the Tottori Microearthquake Observatory (January - June, 1988).



第 2 図 阿武山地震観測所による震央分布図 (1988 年 1 月～6 月)

Fig. 2 Seismicity map by the Abuyama Seismological Observatory (January - June, 1988).



第3図 北陸微小地震観測所による震央分布図（1988年1月～6月）

Fig. 3 Seismicity map by the Hokuriku Microearthquake Observatory (January - June, 1988).